

大学における生活経済教育の現状と課題

— アメリカでの生活経営・生活経済系カリキュラム事例と課題 —

Current status and challenges of Household Economics Education at Universities.
Examples of life management/life Economics curriculum in U.S.A.

古 寺 浩

Hiroshi KODERA

小 田 奈緒美

Naomi ODA

1 はじめに

アメリカ家政学会（AHEA）は、1971年3月に全米大学基準協会（NCA）による認証を得て、大学教育プログラムの基準認定活動（専門教育プログラム別基準認定）を開始した。この活動は、学会が作成した評価基準に照らして大学教育プログラムを評価し、それを運営する組織（Unit）に認定を付与するというものである。

この活動の目的は、大学教育の質の向上、その対外的保証、継続的な改善である。なお、アメリカ家政学会は、1994年の年次大会での決議に基づいて学会名をアメリカ家族・消費者科学会（AAFCS）に変更し、全米大学基準協会は、1996年にその組織名を全米高等教育基準協会（CHES）に変更している。

AHEAが1971年より開始した基準認定活動の最初の成果として、1972年末時点において認定を付与されたのは、わずかに6つのUnitsであった¹⁾。その後、1973年には3Units、1974年には8Unitsが認定を付与され、あわせて17Unitsとなった。後述するが、認定付与期間は通常10年であり、認定付与後も、大学とUnitは、教育プログラムの質の維持向上のための努力を積み重ねながら、10年後の再

認定付与を目指すこととなる。

こうして、毎年、新たに認定を付与されるUnitと再度認定を付与されるUnitがあり、1972年から1988年までは、認定を付与されたUnitが増えていったが、筆者らの調査によれば、その後は減少する傾向にある²⁾。

Unitが学会による認定の付与を目指す一方で、学会も10年ごとに全米基準協会の認証を得るため、学会がUnitを評価する組織・手順・基準などを常に見直している。直近においては、AAFCSは、2010年、2019年に基準認定に関するドキュメント（Document）を改訂している³⁾。

学会による基準認定、認定付与の対象となるのは、大学全体ではなく、教育プログラムを提供している教育・研究組織である。

Documentsなどによれば、この組織は、Unit(s)と表記され、具体的には、School of Human Sciences, College of Family and Consumer Sciencesなどであり、この組織が提供する教育プログラムは、衣食住・家族・児童・消費などを含んでいる。

こうしたことを踏まえ、本研究では、大学教育プログラムに対するAHEA/AAFCSによる専門教育プログラム別基準認定の現状と課

題，および生活経済教育の現状と課題について，評価手順や評価基準，大学教育カリキュラムを参照しながら追究したい。

2 研究目的

本研究の目的は，AHEA/AAFCSによる大学教育プログラムに対する専門教育プログラム別基準認定の現状と課題，および生活経済教育の現状と課題を明らかにすることにある。

明らかにすべき主な内容は以下のとおりである。

- (1) 専門教育プログラム別基準認定の組織構成
- (2) 専門教育プログラム別基準認定の手順
- (3) 専門教育プログラム別基準認定の基準
- (4) 専門教育プログラム別基準認定付与数の推移
- (5) 専門教育プログラムにおける生活経営・生活経済分野のカリキュラム内容

3 研究方法

先に示した研究目的上明らかにすべき主要内容である(1)～(5)に対するそれぞれの研究方

法は，以下のとおりである。

- (1)(2)(3) AHEA/AAFCSのDocuments, AAFCSのWebサイトとCHEAのWebサイト上に掲載された情報，関連論文を資料として組織・手順・基準の現状を把握し課題を考察する。
- (4) 筆者らがこれまでに得ている情報，AAFCSのWebサイト上に掲載された認定を付与されたUnitに関する情報を資料として認定付与数の推移を把握し課題を考察する。
- (5) 現時点で，認定を付与されているUnitが発行・公開しているカタログを用いて得たカリキュラム情報を資料として生活経営・生活経済分野のカリキュラム内容を把握し課題を考察する。

4 結果及び考察

(1) 基準認定の組織構成

2023年11月現在，CHEAのWebサイト上に掲載された情報によれば，**図1**に示すように，大学全体を教育機関として基準認定する機関別基準認定団体が7団体あり，特定の専門分野を提供する組織を対象として基準認定する専門教育プログラム別基準認定団体が66団体

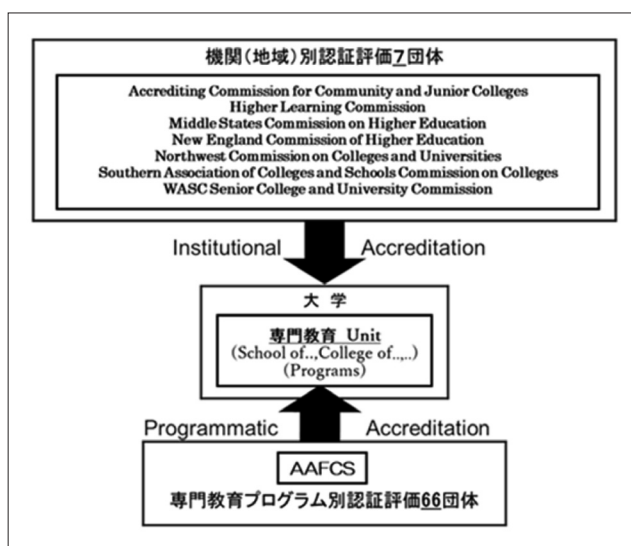


図1 認証評価団体の枠組みと団体数

ある。AAFCSは、後者にあたる団体として1971年よりその基準認定活動を行っている。

また、AAFCSが発行・公開している最新のDocumentsによればAAFCSによる基準認定活動の信頼性を確保するためのガバナンス構造は、Council for Accreditation (CFA), Collegiate Assembly, CHEAによって構成されている。

CFAは、10名の投票権を持つメンバーで構成されており、認定の付与、保留、または取り消しに関連する認定ポリシー、手順、措置、および決定についての責任を負う組織である。

10名のメンバーの内訳は、Collegiate Assemblyによって選出された認定付与Unitの代表者6名、2名の実務専門家、AAFCS会長によって任命される2名の国民の代表である。

Collegiate Assemblyは、認定付与Unitからの1名ずつの代表者によって構成され、認定に影響を与える可能性のある高等教育の問題に対処し、教育プログラムの強化を担う。

CHEAは、米国の各団体を束ねて基準認定活動を調整する民間の非営利組織で、前述したように、AAFCSの活動もCHEAによって認証され、10年ごとに認証の見直し、更新が繰り返されている。

(2) 基準認定の手順

AAFCS、特にCFAによる基準認定の手順は以下のとおりである。⑧は、課題のまとめである。

①基準認定審査申請

基準認定の審査を受けようとする大学は、対象Unitのカatalog、または適切なWebサイトのURLを1部、およびDocumentsに掲載されている申請書を3部提出する。申請にあたっては、Documentsに記載された手順・基準・費用などについて事前に大学内での合意を得ておく必要があり、その観点から、この

申請書には、大学の最高経営責任者、またはUnitが所在する機関の指名者の署名を必要とする。

また、Unitは、基準認定の審査に先立ち、返金不可の申請料を支払う。

②基準認定審査申請の事前審査

申請書に対して、CFAは、Unitのどの教育プログラムを基準認定の対象とするかを決定する最終的な権限を持ち、また、基準認定の対象となるべく要件を満たしているかどうかを判断する。

③自己評価報告書の提出

申請が承認されると、Unitはその承認日から2年以内に自己評価報告書を提出する必要がある。この期間内に自己評価報告書が提出されない場合、申請は無効となり、申請時に支払った申請料は没収となる。Documentsの説明によれば、自己評価報告書の作成には通常6か月から1年ほどかかる。

④自己評価報告書の現地訪問前審査

Unitより提出された自己評価報告書は、CFAの3名の委員による事前審査を受ける。この審査の目的は2つあり、1つ目は自己評価報告書が現地訪問の日程を進めるのに十分な記述的かつ分析的内容であるかどうかを判断すること、2つ目は現地訪問チームに対してUnitの概要説明を提供することである。

3名の委員は、この事前審査の結果として現地訪問を承認する、現地訪問について決定を下す前に追加情報をUnitに要求する、現地訪問を拒否するという3つの選択肢から1つを選んで決定する。

⑤現地訪問

CFAにより、現地訪問の実施が承認されると、Unitの規模に応じて2～4名の現地訪問チームが生まれ、Unitとの間で日程調整などがなされる。

CFAは、現地訪問チームのメンバー候補の

名簿を常に管理しており、教育者、学術管理者、実務専門家などから選出する。

現地訪問は、通常日曜日から水曜日までであるが、前日の土曜日に事前打ち合わせをすることから計5日間となることが多い。現地訪問チームのメンバーは施設を離れる前に現地訪問報告書の草稿を作成し、報告書は60日以内にUnitに届けられる。Unitには、この報告書の不正確さを修正したり、データや記載内容に対する別の解釈を提供したりする機会が与えられる。

⑥ 認証評価結果の決定

CFAは、自己評価報告書を含むUnitからの提供書類・情報、現地訪問報告書などに基づいて次の3つの決定のいずれかを行う。

- ・ 認定付与
- ・ 暫定認定
- ・ 認定不可

なお、暫定認定とは、Unitがほとんどの基準を満たしており、2年以内に再審査の準備を整えるその2年間の期間だけ限定的・暫定的に付与される。

⑦ 認定とその継続、および費用

認定付与期間は、原則10年間であるが、その維持には定期的な報告書（3年目、5年目、および7年目）の提出を必要とする。また、費用としては、認定付与までに必要な申請料、現地訪問費用、そして認定後は、教育プログラムの年間卒業生の数に応じた年会費が必要となる。

⑧ 認定の手順における課題のまとめ

③の自己評価報告書の作成には大変な労力と時間がかかり、Unitの教員や管理者に重くのしかかる。また、提出した自己評価報告書の事前審査結果が戻るまでに1年以上かかり、Unitの教員や管理者は長く待たされることになる。⑦の3つの費用がUnitや大学の財政に重くのしかかる。これらは、AAFCS・CFA

による基準認定審査を受けようとするUnitや大学の意欲を削ぐものとなっている⁵⁾。

(3) 基準認定の基準

資料1は、Documentsの2001年・2010年・2019年版に掲載された評価基準の目次構成である。2010年・2019年版は、同一目次である。

2001年版においてはStandard 4が、2010年・2019年版においては、Standard 2が教育プログラムそのものの内容に対する認証評価基準である。

筆者らはこれら以外にも過去のDocumentsを保有しており、資料2は、各年版の教育プログラムに関する認証評価基準の変遷をまとめたものである。

一番大きな基準の枠組みの変更は2010年版におけるもので、2019年版にも引き継がれている。それまでの基準の枠組みは、いわゆる衣食住、家族や人間発達といった学問や学びの分野をイメージさせるものであった。しかし、2010年版からは、切り口が、中心概念、統合要素、横断的テーマへと大きく変わっている。

このことに関しては、現在資料・情報を収集中であり、別の機会に論じることとする。

これ以外の変更としては、1995年版と1990年版の違いがある。いずれも知識基盤として、①家族システム、②生涯発達、③資源管理、④食物栄養、⑤デザインと技術、⑥アパレルとテキスタイルの6つを挙げており、この点については、両者は全く同じである。

しかし、1995年版では、学生は①家族システムについて学び修め、それとともに②～⑥のうち少なくとも1つの領域を学び修めるものとしている一方で、1990年版ではOPTIONがAとBの2つ設けられており、Bは1995年版のものと同じ、Aは、知識基盤の①～⑥を通したすべての内容を網羅し、学びを修める

資料1 認証評価基準 (2001, 2010, 2019)

<p>【2010・2019】</p> <p>STANDARD 1: INSTITUTIONAL ENVIRONMENT STANDARD 2: INSTRUCTIONAL PROGRAMS STANDARD 3: DISCOVERY, INTEGRATION, AND APPLICATION OF KNOWLEDGE STANDARD 4: FACULTY, STAFF, AND STUDENTS</p> <p>【2001】</p> <p>STANDARD 1: Mission and Goals STANDARD 2: Organization and Administration of the Family and Consumer Sciences Unit STANDARD 3: Program Foundations STANDARD 4: Professional Programs STANDARD 5: Faculty STANDARD 6: Student STANDARD 7: Learning Resources STANDARD 8: Learning Environments</p>

資料2 Documents各年版の教育プログラムに関する認証評価基準の変遷

1971年版, 1975年版, 1978年版
<p>All programs include emphasis in the following areas:</p> <p>3.1(1) the family in society 3.1(2) human growth and development in relation to nutrition 3.1(3) human development and its relation to the family 3.1(4) management of human and material resources, 3.1(5) aesthetic qualities in the environment, 3.1(6) the influence of science, technology, and consumer economics upon families and family members 3.1(7) the philosophical base of home economics and the relation of its specialties to the field as a whole.</p>
1989年版, 1990年版, 1995年版
<p>3.1(1) family system 3.1(2) life span human development 3.1(3) family resource management 3.1(4) human nutrition and food 3.1(5) design and changing technology 3.1(6) apparel and textile</p> <p>Option A (1995年版はOption A無し) students achieve mastery of concepts related to 3.1 (1) through3.1 (6) Option B students achieve mastery of concepts related to 3.1 (1) and at least one of the other areas of study3.1 (2) through3.1 (6)</p>
2001年版
<p>3.1(1) human system theory and life course development 3.1(2) resource management 3.1(3) wellness 3.1(4) food and human nutrition 3.1(5) apparel and textile 3.1(6) shelter and design of the near environment</p> <p>Options to function in society as a generalist ((1)~(6)), as specialists ((1)+(2)~(6))</p>
2010年版, 2010年版, 2019年版
<p>3.1(1) CORE CONCEPTS a. basic human needs b. individual well-being c. family strengths d. community vitality</p> <p>3.1(2) INTEGRATIVE ELEMENTS a. life course development b. human ecosystem</p> <p>3.1(3) CROSS-CUTTING THEMES a. capacity building b. global interdependence c. resource development and sustainability d. appropriate use of technology e. Wellness</p>

こととしている。

さらに古い版では、各知識基盤の内容表現に違いがあるものの、知識基盤の①～⑦を通したすべての内容を網羅し、学びを修めることを求めている。

1950年代に、基準認定活動参画を目指して学会内でなされた議論の中で、Home Economistを次のように定義している。「Home Economistとは、家庭経済と家庭経営、家族関係と児童発達、食物と栄養、住居・インテリア及び施設、そして被服のこれらすべての分野を学び修め卒業したものである⁶⁾。」「これらの分野のうち1つないしはそれ以上の分野におけるエキスパートとして専門職業に従事している者である⁷⁾。」

当時、我々はゼネラリストを育てるのか？スペシャリストを育てるのかという議論もあったが、前者はオプションA、後者はオプションBと考えることができ、徐々にゼネラリスト育成という志向が薄れてきているように見える。

(4) 基準認定付与数の推移

前述したように、認定付与状態にある大学数は、1973年から1988年までは増える傾向にあり1988年には91件に達した。しかし、そのわずか2年後には78件へと減り、筆者らが追跡調査をした2001年には59件、2019年には34

件、2023年時点では30件となっている。

1988年の91件のうち2023年時点においても認定付与状態にある大学数は、わずかに24件である。1973年に最初に認定が公表された以下の6大学もすべて姿を消している。

- ・ California State University-Los Angeles
- ・ Eastern Illinois University-Charleston
- ・ University of Missouri-Columbia I
- ・ University of North Carolina-Greensboro
- ・ Drexel University-Philadelphia
- ・ University of Tennessee-Knoxville

これら6大学のうちEastern Illinois University-Charlestonについては、まだ認定付与状態にあった2019年に研究対象としてUnitの階層構造を確認していたので、2023年のものと比較することができる。資料3は、大学Webサイトに掲載されたUnitのカタログを情報源として作成したものである。

まず、Unitの名称がSchool of Family and Consumer Sciencesから、College of Health and Human Servicesへと変更されており、教育プログラム数が増え、領域が広がっている。★印を付した教育プログラムは、名称こそ変更されているものの、領域的には違いがない。

一方で、その他の教育プログラムのいくつかは、AAFCSのプロフェッションや学問分

資料3 カリキュラムの階層構造 (EIU)

Eastern Illinois University	2	School of	Dietetics★
	0	Family and	Family Services★
	1	Consumer	Family and Consumer Sciences in Business
	9	Sciences	Family and Consumer Sciences
			Communication Disorders and Sciences
			Public Health
	2	College of	Human Services★
	0	Health and	Kinesiology, Sport, and Recreation
	2	Human	Military Science
	3	Services	Nursing
		Nutrition and Dietetics★	

野の傘の下には入らないと考えられる。資料4は、2023年時点で認定付与状態にある30大学のUnitsが提供している教育プログラム数を分野別にまとめたものである。

- 食 Food, Nutrition, Dietetics
- 被 Fashion, Textiles, Merchandising
- 児 Child Development, Child Life
- 教 Education, Teacher
- 総 Family and Consumer Sciences
- 住 Housing, Interior, Design
- 家 Family Studies
- 消 Consumer Science, Consumer Affairs
- H Hospitality

「総」とした学問分野全体を総合的に学ぶ教育プログラム、および、「H」としたホスピタリティーを学ぶ教育プログラムを除くと、他の分野はすべて、AAFCSのプロフェッションや学問分野の傘の下に入るものと考えられる。1988年から2023年までの間に、認定付与状態ではなくなった各大学の事情は様々であろうが、Unitの統廃合やプログラムの組

み換えなどによる可能性については、今後の研究課題としたい。

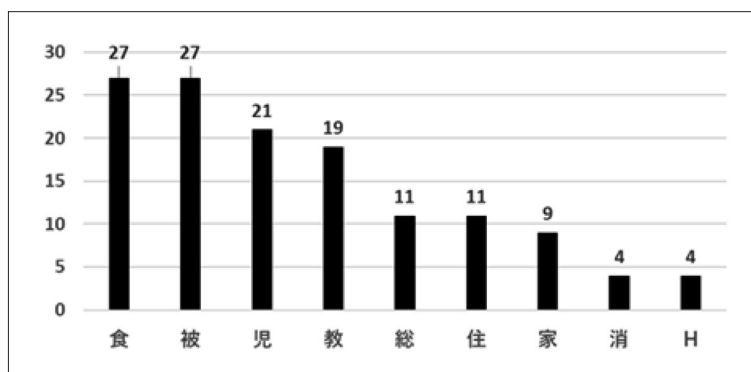
(5) 専門教育プログラムにおける生活経営・生活経済分野のカリキュラム内容

筆者らの専門分野に関連した生活経済教育プログラムがどのような内容であるのかということについて、2023年時点で認定付与状態にある30大学のUnitsのうち4 Unitsが、生活経済に関連した教育プログラムを提供している(資料5)。

筆者らが同様な調査を実施した2001年には、19件のプログラムがあったが、この間に大きく4件に減っている。この4件のうち、California State University – Northridgeの教育プログラムを取り上げてカリキュラムの内容を明らかにする。

資料6は、カリキュラム階層構造である。FCS Unitの下には、5つの専門分野があり、教育プログラムはオプションも含め9本ある。そのうちの1つが、Consumer Affairs Option

資料4 分野別教育プログラム数 (2023)



資料5 消費に関連した教育プログラム

大学名	プログラム名
California State University, Northridge	Consumer Affairs
California State University, Long Beach	Consumer Affairs
Ohio University	Customer Services Leadership
University of Houston	Retailing and Consumer Science

である。

資料7は、Consumer Affairs Optionにおける学士取得のために必要な修得要件単位をまとめたものである。

あくまでも筆者らの本務校のカリキュラムとの比較であるが、違いに気が付く点としては、各8学期に均等に修得単位数が割り振られている点と、科目ナンバーの頭にFCSを冠した専門教育科目がFSC-120を除いてすべて3年次以降に担当されているという点である。

筆者らの本務校では、いわゆるCAP制をとっており、各年次に履修登録できる単位数の上限が定められており、その数は、49単位である。1・2・3年次に49単位ずつ単位を取得することができたとする、学位取得（卒業）要件である128単位を容易に上回ってしまう。

また、専門教育科目の配当については、必修科目35単位のうち22単位が1・2年次、13単位が3・4年生に配当されている。

資料6 カリキュラムの階層構造（CSUN）

The Department of Family and Consumer Sciences (FCS)	
	B.S., Consumer Sciences
	Consumer Affairs Option
	Family and Consumer Sciences Option
	B.S., Family and Consumer Sciences
	Family Studies Option
	B.S., Fashion Design and Merchandising
	Fashion Design and Production Option
	Fashion Merchandising Option
	Textiles Option
	B.S., Interior Design
	B.S., Nutrition, Dietetics and Food Science
	Nutrition and Dietetics Option
	Food Science Option

資料7 B. S., Consumer Sciences取得に必要な要件単位表（CSUN）

Year 1 1st Semester	FCS-120 Adulting: Managing Your Resources	3	Year 3 1st Semester	FCS-320 Family Resource Management	3
	GE-A2 Written Communication	3		FCS-323 Family and Individual Money Management	3
	GE-B4 Mathematics/Quantitative Reasoning	3-4		FCS-324 Consumer Rights, Issues, and Problems	3
	GE-F Comparative Cultural Studies	3		GE-D1 Social Sciences (FCS-340 or FCS-357)	3
	Elective	2-3		GE-F Comparative Cultural Studies(Upper Division)	3
	Total	15		Total	15
Year 2 2nd Semester	GE-A1 Oral Communication	3	Year 4 1st Semester	FCS-315 Housing: Is Owning a Home Still the American Dream?	3
	GE-A3 Critical Thinking	3		FCS-380 Family and Consumer Sciences Foundations and Research	3
	GE-C1 Arts	3		Option Electives*	3
	Elective	6		Elective	6
	Total	15		Total	15
Year 2 1st Semester	GE-D1 ECON101 or ECON160	3	Year 4 2nd Semester	FCS-423 Analysis of Family Economic Issues	3
	GE-B1 Physical Science or B2 Life Science	2		FCS-429 Family and Consumer Public Policy	3
	GE-B3 Science Laboratory Activity	1		Option Electives*	3
	GE-C3 U.S. History (American Institutions)	3		Elective	6
	Elective	6		Total	15
	Total	15		FCS-422 Family Financial Counseling	3
Year 2 2nd Semester	BUS-104 Introduction to Business	3	Year 4 2nd Semester	FCS-494 Academic Internship	2
	GE-B1 Physical Science or B2 Life Science	3		FCS-494 Academic Internship Evaluation	1
	GE-C2 Humanities	3		Elective	6
	GE-D3+D4 U.S. and California Government	3		Total	15
	Elective	3		OVERALL TOTAL UNITS	
	Total	15			120

資料7を見ると、1・2年次に配当されている科目には、科目ナンバーの頭にGEを冠した、いわゆる一般教養科目が多く、しかも必修科目として配当されているものが多い。

このConsumer Affairs Option教育プログラムから、学期ごとの科目数を少なくすることにより、1つ1つの科目をしっかりと学ばせるということ、専門教育科目を学ぶ上で必要な基礎的な力を、一般教養科目でしっかりと付けてから先へ進ませるということを学び取ることができた。

5 要約および今後の課題

本研究では、AHEA/AAFCSによる大学教育プログラムに対する専門教育プログラム別基準認定の現状と課題および生活経済教育の現状と課題を明らかにすることを研究の目的とした。

その結果として、基準認定の組織や手順を明らかにすることができたが、その中で基準認定の手順の確認から、Unitや大学の負担がとてもし大きいことが明らかとなった。また、認定付与状態にあるUnitsがピーク時の91Unitsから30Unitsへと大きく減ってきてしまっていること、そして生活経済教育プログラム数も大きく減ってきてしまっていることが明らかとなった。そしてカリキュラムの分析から、我々の教育プログラムとの違いを見出すこともできた。

今後は、過去には認定付与状態にあったが現在はそうではないUnitsの教育プログラム内容に変化があったのかなかったのかといった追跡をして、認定付与状態にあるUnitが減ってきている理由を明らかにしたい。

注および引用文献

- 1) Gradys E. Vail, Progress on Accreditation, Journal of Home Economics, Vol65, No.3, 1973, 29
- 2) 古寺浩 (2006) アメリカ家政学会によるアクレディテーションの歴史, アメリカ家政学研究会編著 20世紀のアメリカ家政学研究 第3部第3章, 194-198
- 3) AAFCS (2019) ACCREDITATION DOCUMENTS FOR UNDERGRADUATE PROGRAMS IN FAMILY AND CONSUMER SCIENCES
- 4) 現在, AAFCSは, CHEAによって認証された専門教育プログラム別基準認定団体のリストに名を連ねているものの, 認証が見送り状態 (defer the CHEA recognition) となっている
- 5) Carol L. Anderson, Accreditation in the American Association of Family and Consumer Sciences, Family and Consumer Sciences Research Journal, 48 (4), 321-328
- 6) Barbara L. Stewart & R. Wayne Shute, Accreditation: Historical Perspectives and Current Perspectives, Journal of Home Economics, Vol.83 (summer), 1991, 44
- 7) Pundt, H., AHEA: A History of Excellence, AHEA 1980, 334

参考文献

- ・ AAFCS, Accredited Units (2024年1月31日閲覧) <https://www.aafcs.org/credentialing-center/accreditation/accredited-units>
- ・ California State University, Northridge (2024年1月31日閲覧) <https://www.csun.edu/health-human-development/family-consumer-sciences>
- ・ Eastern Illinois University-Charleston (2024年1月31日閲覧) <https://www.eiu.edu/chhs/>
- ・ CHEA (2024年1月31日閲覧) <https://www.chea.org/>